

# 令和7年度 学校評価報告書(松山市教育委員会統一様式)

学校番号
小 148

【評定】 4:とても思う(あてはまる) 3:やや思う(あてはまる)  
2:あまり思わない(あてはまらない) 1:全く思わない(あてはまらない)

松山市立 立岩小 学校

【総合判定】 A:肯定率の平均が90%以上  
B:肯定率の平均が60%以上90%未満  
C:肯定率の平均が60%未満

学校長 河野 和正

※ 肯定率とは、評定(%)の評定4と評定3の合計値です。※ 色が付いているセルのみ入力してください。

評価領域	評価指標	総合判定	対象	肯定率	評定(%)				評定平均	○成果 もしくは ◆改善策
					4	3	2	1		
教育課程・学習指導	学校は、松山の授業モデルをもとに、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	A	教職員	100	100	0	0	0	4.0	○全クラスで公開授業を実施し、授業力を向上させることができた。 ◆振り返り充実させ、分かる喜びをより感じられるように改善する。
	学校は、教科等の指導においてアナログとデジタルそれぞれのよさを適切に生かした授業改善に取り組んでいる。		教職員	100	100	0	0	0	4.0	○各担任がロイロノートで作成した教材を資料箱に残し、全教員で活用できるようにした。2学期末に、キャンバを活用した授業づくりについて研修を行った。
	学校は、児童生徒の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っている。	A	教職員	100	71	29	0	0	3.7	○全教職員で全国学力学習状況調査の結果から課題を見出し、それを基に指導計画の見直しや指導の重点化を行った。
	学校は、地域に根ざした教育を行い、郷土を大切に思う児童生徒の育成に努めている。		教職員	100	63	38	0	0	3.6	○公民館行事と学校行事を結び付けたり、地域の方を講師に招いたことで、児童と地域との関係性が深まった。 ◆感謝を言葉で伝えられるように改善する。
	学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	A	教職員	100	86	14	0	0	3.9	○人権参観日を広く案内したり、夏休みに親子で人権標語を作ったりすることにより、児童の成長や学校の取組が地域住民や保護者に伝わった。
	学校は、「学校のきまり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童生徒の実態に応じた適切な指導を行っている。		教職員	100	86	14	0	0	3.9	○児童が主体となって、校則の見直しに関する話し合いを行った。明文化されていなかったものの、必要性が高いと考えられる決まりの制定や修正を行うことができた。
	学校は、将来に夢をもち、自分の進路や生き方について考える児童生徒を育てている。	A	教職員	100	71	29	0	0	3.7	○一人に対して多くの教員が寄り添いながら関わることで、進路や将来について考えさせることができた。
	学校は、児童生徒に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。		教職員	100	63	38	0	0	3.6	○臨時の通学班会や校則の見直し等を通じて、児童の安全意識が向上した。 ○安全点検により確認された危険箇所について迅速に対応したこと、安全性が高まった。
保健管理	学校は、家庭と連携して個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童生徒の健康保持・増進に努めている。	A	教職員	100	100	0	0	0	4.0	○担任と養護教諭が家庭とこまめに連絡を取り合うことで、個々の健康状態に合った対応をすることができた。
	学校は、換気や手指衛生などの基本的な感染症対策を行っている。		教職員	100	100	0	0	0	4.0	○換気や手洗いなどの基本的な感染症対策の習慣が身に付いており、感染症の流行等が発生しなかった。
	学校は、特別支援教育の視点をもって取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。	A	教職員	100	86	14	0	0	3.9	○職員会で児童理解の時間を設け、全教員が同じ方向で指導することができた。 ◆保護者の理解を深めるために、年度初めに教育相談啓発資料を配付する。
	学校は、組織運営を中心とした組織的な対応を行っている。		教職員	100	53	47	0	0	3.5	○教職員の意見を聞きながら行事や校務を改善したり、手間のかかる仕事はみんなで取り組んだりしたこと、教職員にチーム立岩の意識が育まれた。
研修	学校は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応に向けて、積極的に研修に取り組んでいる。	A	教職員	100	86	14	0	0	3.9	○学期末の校内研では、効果のあった教材・教員についての紹介を行い、次学期の授業づくりに生かせるようにした。
	学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。		教職員	100	100	0	0	0	4.0	○各学年または全校で積極的に地域に出る活動を取り入れたことで、地域との連携をしっかりと行うことができた。 ◆保護者に参加を促す活動を増やす。
情報提供	学校は、学校・学年によりホームページ、配信システム等により、積極的に情報を発信している。	A	教職員	100	86	14	0	0	3.9	○学習や行事の様子を、ホームページや学校だよりを通して発信することができた。地域各所の活動を伝える掲示物にいいねシールを貼ってもらう取組も効果的であった。
	学校は、言語活動の充実及び展掲示の工夫等の環境整備に努めている。		教職員	100	100	0	0	0	4.0	○担任一人一人が魅力的な背面掲示となるよう工夫している。また、児童玄間に児童の感想を掲示する取組により、異学年の友達の文章から学ぶ機会をつくることができた。
教育環境	学校は、小1プロブレムや中1ギャップの解消につなげるために関係園・校で連携し、児童生徒の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。	A	教職員	100	57	43	0	0	3.6	○近隣校との交流活動で仲間づくりの場を設定し、進学への不安解消につながる人間関係を築かせることができた。 ◆連携の機会が増えるように改善する。
	学校は、関係園・校で連携して児童生徒への理解を促進するとともに、系統性を重視した学習指導を行っている。		教職員	100	43	57	0	0	3.4	○進学前に詳細な情報交換を実施したこと、小学校で配慮していたことを進学中学校でも継続して行えるようにできた。
	学校は、関係園・校で連携して児童生徒への理解を促進するとともに、系統性を重視した学習指導を行っている。	A	学校関係者	100	38	63	0	0	3.4	○進学前に詳細な情報交換を実施したこと、小学校で配慮していたことを進学中学校でも継続して行えるようにできた。